

2009

9

No.305

ジャピック

■財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

JAPIC

NEWS

CONTENTS

▶ 巻頭言

老翁(婆)心ながら-52年間の薬屋人生で思うこと-

株式会社スズケン 相談役 西浦 忠男 2

▶ インフォメーション

○8月末発刊!新薬承認審査報告書集「日本の新薬」31~35巻 4

○「重篤副作用疾患別対応マニュアル 第3集」好評発売中! 4

○9月1日発刊!JAPIC一般用医薬品集2010 5

○9月末新発売!! JAPIC OTC医薬品 CD-ROM(Windows対応CD-ROM) 5

▶ コラム

後発医薬品(ジェネリック医薬品)の評価検討-医薬情報センターのお仕事-

(社)熊本県薬剤師会 医薬品情報課 松波 裕子 6

▶ トピックス

☆平成21年度JAPICユーザ会事例報告 JAPIC情報活用事例~利用者の立場から~
ニプロファーマ株式会社 信頼性保証本部 平子 幸雄 8

☆「国際モダンホスピタルショー2009」JAPICブースにも多くの方が来場 10

☆特許法第30条の規定に基づく学術団体の指定を受けました 10

☆会員の声 親の長生きは有難い 旭化成ファーマ株式会社 横山 亮一 12
くすりの散歩道 No.27 GPS(Global Positioning System)について

広島大学名誉教授 生薬学 山崎 和男 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) 14

▶ 図書館だよりNo.231 ▶ 情報提供一覧 15

老爺（婆）心ながら —52年間の薬屋人生で思うこと—

株式会社スズケン 相談役
JAPIC理事 西浦 忠男 (Nishiura Tadao)



昨年来の経済危機を「100年に一度」と言います。また「未曾有の…」とも表現されます。現在の社会環境、将来の行く末を思うとき、老爺（婆）心ながら、あらゆる産業で企業が社会に存在する「目的」と「目標」の履き違えが生じているのではないかと、胸騒ぎが残ります。

昭和32年も就職難でした。少なくとも、内定していた会社が経営難に陥り、働く場のあてを失くしていた私にとってはそうでした。

夏になっても働き口の決まらぬ私を拾ってくれたのは鈴木謙三氏。スズケンの前身、鈴木謙三商店の創業者でした。

入社試験は謙三氏との一回きりの面接。「算盤はできるか」「できません」、「簿記はわかるか」「分かりません」。受かるわけなどないと肩を落としました。ところが謙三氏の「よし、明日から来なさい」の一言。この一言から私の薬屋（医薬品卸）人生がスタートしました。今年で52年を数えます。

謙三氏が医薬品商社・鈴木謙三商店を起こしたのは謙三氏26歳の昭和7年。「世のため人のため」という一途な思いからでした。大戦中の物のない時代、当たり前のように医薬品にもヤミ値が横行する中でも、公定価格での販売に徹しました。昭和50年、69年の人生を閉じるまで、生涯、創業のころ「世のため人のため」を貫いた人でありました。

私の52年間の薬屋人生の根底には、謙三氏の「創業

のころ」が大きく影響を及ぼしています。謙三氏が自らの体で示す「創業のころ」に直に触れた18年間は、私の人生観の根幹を成していると言っても過言ではありません。

今年伊勢湾台風から50年になるとテレビが言っていました。東海地方を中心に広範囲で気象観測史上に残る被害を及ぼした台風。死者・行方不明者は5,000人あまり。三重・愛知の広い範囲で高潮による浸水が発生し、名古屋市の南区では一ヶ月以上も水が引きませんでした。

「災害時こそ医薬品を届けるのがわれわれの使命」「水で薬が届けられないことはない。舟で行け。川を渡れないなら陸を大回りして届けよ」。謙三氏の号令のもと、全社員が奮い立ちました。

引き潮を見計らって得意先に薬を届け、満ち潮に追われるように引き返す。そんな日が何日も続きました。

医薬品卸には「必要な薬を」「必要なところへ」「必要な時に」お届けするという社会的使命があります。医薬品卸が存在し続ける限り、どのような環境でも、どのように時代が変化しても変わることはありません。

その後も、時代時代で大小様々な場面に遭遇しました。

入社数年目の深夜、お得意さまから「大至急、酸素を届けてくれ」という電話がありました。酸素はその性質から常時の在庫はしていませんでした。酸素業者に手配をし、荷台に括りつけたボンベの重みでハンドルが浮き上がる状態でバイクを飛ばしました。途中パトカーに追わ

れ、事情を説明し先導してもらいました。

それでも……、間に合わなかった。

後日、「配達がもっと早ければ…」と言われたときの悔しさは、50年たった今でも忘れられません。同時に自分が関わっている仕事が人の命に直結していることを肌で感じた出来事でもありました。

反面、喜びもありました。殊に人の役に立てたときは、この仕事が自分にとってのやりがい・聖職・天職へと昇華しました。

平成7年3月、東京の出勤時間帯の地下鉄車内で有毒ガスが撒かれました。次々と被害者が担ぎ込まれ、戦場と化した病院。医師の必死の対応で有毒ガスの「サリン」が原因と判明しました。「サリン」には「パム」が効く。しかし、「パム」は農薬の誤飲などに用いる解毒剤です。都市部で使うことは稀。東京中の在庫を集めても、それだけの人数には対応できません。この状況をテレビで見ていた社員がとった行動。それは、新幹線沿線の支店と連携して、最寄りの各駅にありったけのパムを集めること。名古屋から東京まで「こだま」が駅に止まるたびに受け取りながら東京へ運ぶことでした。のちに、このことがテレビでも紹介されました。

また、被害の大小はあれ、何度かの地震や集中豪雨。被災地では散らかる自宅のあと片付けを後回しに、使命を果たそうと奔走する社員の姿がありました。

いま、新型インフルエンザの今後の推移が憂慮されています。事態によっては、医薬品卸の社員は自らの身を賭して社会的使命を果たさなければなりません。

米国の大手証券会社の経営破綻が世界中を驚愕させてほぼ一年。リセットもできず景気低迷から這い上がることのできない経済状況。自らの利潤を追求した一部の金融業者のマネーゲームは世界経済を混乱に陥れました。

さらに、産地偽装や賞味期限の改ざんなどの「食品偽装」。歴史や名のある企業の不祥事を耳にするたびに、創業者の言葉「世のため人のため」がよみがえります。

経済を支えるはずの企業。いったい「顧客」を誰と認識していたのかとの疑念が生じます。社会の歪みでしょう

か、「顧客」がいつの間にか「自らの満足」に入れ替わってしまっているのではないかと考えてならないのです。

「企業とは何のために、誰のために存在するのか」

そもそも、企業が社会に存在する目的は、よりよい製品やサービスを提供し「社会や人々に役立つこと」にほかなりません。企業間の競争軸はそれらの質の争いでなくてはならないはずです。

もちろん、利益を上げ、税金によって社会に貢献することも、企業が果たすべき重要な責任です。

とはいえ、利益は継続して「世の中の役に立つ」ための手段。目的ではありません。利益は社会に貢献し続けるためのファクターであって、利潤追求は企業が社会に存在する目的ではないと確信しています。

昨今の状況をリセットするとすれば、それは企業それぞれが創業時の精神に立ち返り、改めて自らの存在意義を問い直すことしかないのではないかとすら思えてきます。

私どものお得意様でもあるエーザイ株式会社は、その定款に企業理念として「本会社の使命は、患者様満足の増大であり、その結果として売上、利益がもたらされ、この使命と結果の順序を重要と考える」と謳っています。

利潤追求が第一義であってはならないのです。評価されるべきは、儲かるかどうかではなく、社会や人々にとってなくてはならない企業か否か。社会の役に立つ企業かどうかでなくてはならないと思っています。

かつて、こんな記事を読んだことがあります。長い目で見ると、目先の利潤を重んじる企業に比べて、社会全体の最善を重んじる企業の方が、進むべき方向を見失うこともなく成長する。という主旨でした。昨今の経済記事に触れるたび、この記事思い出しています。

一つの企業で52年間を送ることができたことは、何にも勝る喜びであります。と同時に、残り僅かな薬屋人生の締めくくりに、次の時代を背負っていく若き同胞たちに「世の中の役に立つ」喜び、「創業のこころ」は伝えておかなければならないと思っています。

8月末発刊! 新薬承認審査報告書集「日本の新薬」31~35巻

本書は独立行政法人医薬品医療機器総合機構で行われた新医薬品の承認審査の報告書をまとめて編集したものです。このたび平成20年1月~12月までに承認・公表された55品目を承認月順に収載し、31~35巻の5分冊にまとめました。

新薬承認申請の際の参考資料として、また大学の医薬品情報およびレギュラトリーサイエンス教育用の教材・資料としてご利用いただけます。

1~20巻	平成10年~平成17年までに承認された350品目を薬効別に収載
21~25巻	平成18年に承認された52品目を承認月順に収載
26~30巻	平成19年に承認された59品目を承認月順に収載
31~35巻	平成20年に承認された55品目を承認月順に収載

価 格	B5版	1~35巻 各巻	23,100円(税・送料込)
		1~35巻セット	404,250円(税・送料込)
		21~25巻セット	57,750円(税・送料込)
		26~30巻セット	57,750円(税・送料込)
		31~35巻セット	57,750円(税・送料込)

購入方法 JAPICホームページ入力フォームからお申し込みください。
セットでお求めいただくと割安です。

お問い合わせ先 事務局 業務・渉外担当(TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



「重篤副作用疾患別対応マニュアル 第3集」好評発売中!

第1集、第2集に引き続き、(社)日本病院薬剤師会の協力のもと「重篤副作用疾患別対応マニュアル 第3集」(20マニュアル)を7月末発行しました。本マニュアルは厚生労働省の重篤副作用疾患総合対策事業として、平成17年度から4年間の計画で作成されているものです。

第3集収載の20マニュアルは以下のとおりです。

- 網膜・視路障害 ■緑内障 ■抗がん剤による口内炎 ■ビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死
- 薬物性口内炎 ■胸膜炎、胸水貯留 ■肺水腫 ■うっ血性心不全 ■心室頻拍 ■急性睪炎(薬剤性睪炎)
- ギラン・バレー症候群(急性炎症性脱髄性多発神経根ニューロパチー、急性炎症性脱髄性多発神経根神経炎)
- 痙攣・てんかん ■ジスキネジア ■末梢神経障害 ■骨粗鬆症 ■高血糖 ■甲状腺機能低下症
- 甲状腺中毒症 ■尿閉・排尿困難 ■急性汎発性発疹性膿疱症

定価1,680円(本体1,600円+税)、B5版、470頁

JAPIC会員特価 1,512円/1部 会員の皆様には業務担当者宛に1部お送りしました。

ご購入は事務局業務・渉外担当までお願いします。(TEL:0120-181-276)

9月1日発刊! JAPIC一般用医薬品集2010



9月1日に「JAPIC一般用医薬品集2010」を発刊します。本年6月施行となった改正薬事法に対応したものとなっております。国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅しております。薬局・ドラッグストア等におけるDI活動の資料等にご活用ください。

《「JAPIC一般用医薬品集2010」の特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品、約12,000製品を収録（2009年7月までの一般用医薬品情報を収録）。
- ◇全製品の組成・効能効果・用法用量・リスク区分を掲載すると共に、薬効ごとの「使用上の注意記載要領」を記載し、更に新一般用医薬品などの「使用上の注意」を収録して添付文書記載内容を網羅するよう編集。
- ◇一般用医薬品販売に必須情報である、医薬品製品ごとのリスク区分の記載を本文及び索引に掲載。また販売時に文書による説明義務のある第一類医薬品をまとめた第一類医薬品索引を収録。
- ◇付録として一般用医薬品のリスク区分一覧（成分）・ブランド名別成分比較表等を収録。
- ◇価格は据え置き¥9,450（税込）

9月末新発売!! JAPIC OTC医薬品 CD-ROM (Windows対応CD-ROM)

本年6月に施行された改正薬事法に基づく一般用医薬品販売制度改正に対応した一般用医薬品添付文書検索データベース「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2009年9月版」を9月末に発売致します。

《「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2009年9月版」の特長》

■搭載機能

- ◇一般用医薬品の添付文書情報の自由語検索、剤形・リスク区分・薬効分類等からの検索。
- ◇JANコードによる製品直接表示機能（バーコードリーダー等で直接JANコードを入力していただくことで製品データを直接参照することができます）。
- ◇検索結果一覧及び製品情報の印刷・テキストデータ出力機能。
- ◇インターネット経由の「iyakuSearch」掲載の最新一般用医薬品添付文書PDF表示機能。
- ◇取扱い製品登録機能及び第一類医薬品の販売時に必要な情報提供文書（JAPIC一般薬情報）の出力機能（出力されたWordファイルをユーザー側で加工して使用）。
- ◇取扱い製品登録データの次版への引き継ぎ機能（年4回発行予定）。
- ◇新発売記念特価¥2,100（税込）[次版から3,000円（税込）になります。]

■収録内容

- ◇国内流通のほぼ全ての一般用医薬品（部外品含む）、約12,000製品の組成・効能効果・用法用量及び特長などの添付文書記載情報を収録〔2009年7月（予定）までの情報を収録〕。

ご購入は事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）まで。

後発医薬品(ジェネリック医薬品)の 評価検討

—医薬情報センターのお仕事—

(社)熊本県薬剤師会 医薬品情報課
松波 裕子 (Matsunami Yuko)



☆医薬情報センターのお仕事って？

(社)熊本県薬剤師会 医薬品情報課のおもな仕事をあげてみます。

①消費者お薬相談窓口

医師、歯科医師、薬剤師、一般消費者などすべての方を対象に、電話相談窓口を開設しています。月間の相談件数は200件前後、ありとあらゆる相談にお答えしています。薬剤師からの質問は、圧倒的に調剤報酬関係が多く、月間かなりの件数にのぼります。その他、用法用量や当センターで毎月発行している「くまもとDIニュース」を読んだ質問などが寄せられます。

一般消費者からは、これから飲む薬に対する漠然とした不安、副作用に関する質問が多いのですが、実際に副作用が出ている例はほとんどなく、飲んでみないと副作用が出るか出ないかはわからないものですが、あまりそこを強調するわけにもいかず、話を聞き、不安を取り除きながら、まずは服用してもらうように話しをします。ただし、口内がただれたり、湿疹がでたり“これはもしやSJS!?”と皮膚科受診を勧めた例も過去に数例あり、この時も本人は薬が原因の可能性など微塵も感じておらず、気付かぬ薬の副作用は怖いものだとすることを改めて感じました。

②月刊 くまもとDIニュース 作成

熊本県薬剤師会の会報誌、熊薬会報の“ピンクのページ”「くまもとDIニュース」を毎月20ページ前後担当しています。DI事例では、その時々質問の多かった内容についてQ&A形式で掲載しています。ネットで簡単に検索できない情報、手元に自分が欲しいと思う資料を掲載すると、好評をいただき、元気付けられます。

③緊急情報の提供 医薬品・医療機器等安全性情報他

④後発医薬品(ジェネリック医薬品)の評価検討

ジェネリック医薬品(後発医薬品)は先発医薬品と比べてどうか?自分が飲むならどの後発医薬品を選ぶか?などの疑問から、今から6年前、熊本県薬剤師会では後発医薬品評価検討委員会を設置。まだ現在のように後発医薬品に追い風が吹いていない頃で、おまけに先発中心の世界で薬剤師生活を送ってきた私にとっては、後発医薬品メーカーの名前すらわからず、新たに設置された委員会で作業を行うのは手探りの状態でした。一口に後発医薬品と言っても、選ぶ基準が多岐にわたるのはご存じのとおり、一くりに後発医薬品が論じられていますが、あまり真剣に選ばなくてもいいような後発医薬品から、治療のカギとなる先発医薬品の後発まであって、後発医薬品をひとまとめに論じることには無理があるような気がします。

自分が何を飲むか?親に飲ませるならどの後発医薬品を選ぶか?という視点から、患者さんに勧められる後発医薬品を選定するとなると、自ら実験してみるのが一番ですが、これには費用と時間と労力がかかり、さらに実験の正確性やデータ解析も重要になってきますので、第三者評価として確立するためにはさまざまな困難が付きまといまいます。そこで、まず手始めに、購入金額の高い先発医薬品について、メーカーと製品の比較を行いました。この作業結果を「メーカーランキング+製品ランキング=総合ランキング」という形で点数化し、後発医薬品をランク付けすることによって、後発医薬品メーカー名とその特徴、また各メーカーの後発医薬品についても、製品の特徴から選択できるようになりました。

第二弾は、先に述べた多岐にわたる後発医薬品のデータを収集・整理し、窓口で患者ニーズに応じて薬剤師が

データから選べるようなデータ集作りを目指しました。薬価、錠剤の大きさはもちろん、最近の後発医薬品は先発医薬品を凌駕するような製剤的付加価値を持ったものが多く作られているので、その特徴。さらには、自分で飲むもの、親に飲ませるものという視点で選ぶ場合、私個人として最も重視する「厚生労働省申請資料中の生物学的同等性におけるパラメーター差」の資料を集めました。

さらに第三弾として、第一弾でランク付けした後発医薬品が実際に市場と連動しているかどうかを調べてみました。熊本県内の各支部で薬局が備蓄している後発医薬品を調査したところ、意外にも、南の支部では〇〇製薬が多く、北の支部では△△薬品が多い、という具合に、地域によって備蓄している後発医薬品がバラバラであることがわかり、第一弾の調査ではノーマーク（上位ランキングではない）の後発メーカーが特定の地域で大健闘している様子が浮き彫りにされ、なかなか面白い結果になりました。その理由をメーカーに尋ねたところ、長年、地道に地域でMR活動を続けた結果、ここ数年来、後発医薬品、ジェネリック医薬品と取りざたされる以前から、地域の病院で採用され、地域密着型後発医薬品ともいえるほどに定着していたようです。

このように実際の後発医薬品普及には地域格差が大きく、製剤の優劣ではなく、他の要因で普及している状況がわかりました。この地域備蓄調査結果も、地域で長年使用され、問題がないということは一つの選択基準と言えるのではないかと思います。

第四弾として、実際に先発医薬品対後発医薬品の安定性比較試験を行うことにしました。私たち薬剤師が最も興味があるのは、先発医薬品メーカーが製剤化および製剤安定化に苦勞している製剤の後発医薬品とは一体どれほどのものであろうか?ということ。後発医薬品のお手並み拝見といったところでしょうか。そこで対象としたのがリマプロストアルファデクス、オパルモン錠です。1錠中の含有量が5~10 μ 、つまり100mg重量1錠中の1万~2万分の1しか有効成分が含有されておらず、シクロデキストリンに包接させてやっと安定を保っている湿度に弱いプロスタグランジン製剤。後になって実験を進めるうちに、極微量であるがゆえに、通常よりもさらに実験の正確性とデータ分析能力が必要であるということに苦勞し、別の製品を選べばよかったかな?と後悔もしましたが、何とか無事終了。その分、結果は面白いものになりました。

大手後発メーカー製品の中には、最大の弱点である吸湿による分解を抑えるため、添加物など製剤レシピに手を加え過ぎ、つまり“やり過ぎ”で、かえって分解の進んでしまうものや、比較的小規模な後発メーカーであっても、先発医薬品と同様、分解を抑え続けるものがあり、ロット間ばらつきさえなくせば良い製品なのに…と思わせるものや、乾燥させ過ぎても分解が進んでしまう珍しい製品があったため、乾燥剤に触れさせなければ上手く効力を保てるものなど、各後発医薬品の特徴が現れ、この特徴を把握し、上手に対処すれば、自信を持って患者さんに後発医薬品を勧めることができ、個々の後発医薬品について適切な保管方法を提案できるのではないかと思います。結果となりました。

☆薬剤師になってよかったこと

薬剤師になってよかったと思えるのは、両親が何かと薬の世話になるようになったここ数年です。メパロチンを飲んでいるはずが、もっと良く効く薬に変えると医師から言われリピトールに変更になった途端、発生した横紋筋融解症に気づき、すぐさま医師に対応が取れたこと。晩酌後にフリバスを飲んで入浴中に倒れていたのを救急車で運び、フリバスのせいではないかと医師と協議し中止してもらったことなど。前者も薬のせいだと気付かず飲み続けければ腎不全になっていたかもしれないし、後者もその習慣を続けていれば転倒して重大な事態になっていた可能性があると思えばゾッとします。こういう事件が続いたせいで、高齢者にとって薬がいかに危険であるか身にしみて感じるとともに、おかかえ薬剤師として何かと両親に頼りにされているようで、ちょっと嬉しく勝手に自己満足しています。

☆これからの医薬情報センター

後発医薬品も製剤学的に見ることのできるのは薬剤師だけです。やればやるだけ奥の深さを感じ、薬剤師の本領発揮のような気がします。また、高齢者にとって薬は危険が一杯です。もっと副作用に敏感になり監視の目を光らせる必要があります。これらのことから、今後ますます情報センター、いや薬剤師のお仕事が面白くなってきそうです。

※(社)熊本県薬剤師会における後発医薬品評価検討作業の結果は「後発医薬品データ集 2008」として1冊の本にまとめ1,000円/冊で熊本県薬剤師会にて販売しております。
TEL:096-274-5333 HP:<http://www.kumayaku.or.jp/>

平成21年度JAPICユーザ会事例報告

(6月9日大阪ガーデンパレス)

JAPIC情報活用事例～利用者の立場から～

ニプロファーマ株式会社 信頼性保証本部 副本部長 平子 幸雄 (Hirako Yukio)



弊社は1948年創業、GMP適合4工場を擁し、自社製品約300品目、従業員約1500名、MR約170名で、注射剤、キットに加え内服薬はじめ各種製剤にわたり高品質・安全な医薬品の安定供給を掲げて企業活動を行っているジェネリック製薬企業です。

JAPIC情報の利用において、研究開発型の製薬企業とは差異があるかと思えます。また、必ずしもJAPIC情報を十分に活用しているとは言い難いのが実状ですが、少しでもご参考にしていただければと思い、弊社の利用状況を活用事例としてお話し致します。

①JAPIC情報を利用する目的

医薬情報の収集、特に医薬品の安全性に関する情報の収集、総合的な医薬情報、各国の安全性に関する規制動向の把握、情報収集労力と費用の削減。

製薬企業は、医薬品の適正使用、すなわち有効性、安全性、品質にかかわる総合的な医薬情報の入手が必要であり、GVP省令、GPS省令に対応し、安全管理情報の幅広い範囲の網羅的かつ迅速な情報の収集が求められ、これに応える業務の中で使用しています。また、個々の医薬品に関する安全性情報の収集の他、各国の安全性に関する規制動向の全体的な把握においても役立てています。

但し、情報収集に多大の労力と費用がかかることは言うまでもなく、企業としては労力および費用の節減も考慮し、情報を効率的かつ経済的に収集せざるを得ません。収集範囲の広さ、ホットな情報、毎日入手・入手にあまり手間がかからないことに加え、質の高い情報、経済的であることが情報サービス利用のキーワードと考えます。

弊社の安全管理部門は、信頼性保証本部の「安全管理部」を主体とし、安全管理統括部門12名及びお客様相談およびインタビューフォーム作成を担当する製品情報室5名の総計17名が業務にあたっています。

安全管理情報の収集は、①医療関係者からの副作用・感染症報告、いわゆる「自主報告」、②使用成績調査、特定使用成績調査、製造販売後臨床試験から得られる「使用成績調査等」の情報及び③他の製造販売業者から得

る「国内提携企業」からの情報に加え、④行政当局からの情報、⑤外国措置情報 (CIOMS等、CCSI) や学会報告、文献報告その他研究報告から得ており、JAPIC情報サービスはそのツールとして利用しています。尚、情報収集担当者は、学会・文献 (内科学会雑誌、透析医学会雑誌、化学療法学会雑誌、アレルギー、医事新報や病院薬剤師会雑誌等) を皆で分担閲覧するとともに、情報サービスのJAPIC-Q (毎週) や海外医薬情報研究会の「副作用情報」 (月3回) を確認しています。さらに、安全統括管理部門以外の部署が情報を得た場合も、所定の連絡票を用い、情報入手できる体制をとっています。

②利用しているJAPIC情報サービス等

- ・安全性情報: JAPIC-Q、JAPIC-Q Plus、JAPIC Daily Mail、JAPIC Daily Mail Plus
- ・iyakuSearch: 医薬文献情報、医薬品類似名称検索
- ・JAPIC出版物: JAPIC医療用医薬品集、JAPIC NEWS
- ・ユーザ会、JAPIC図書館等

JAPIC-Qは、生物由来製品の成分名及び安全性をキーワードとして登録し、年間約350件の情報を入手しています。

入手情報については、使用製品名等の確認を行い、自社製品である場合は即日遅くとも翌日までにMRが医療機関を訪問し、情報収集しています。使用製品名や自社製品か否かの確認には時間を要する場合がありますが、

概ねご理解ご協力を得ており、他社品と判明した場合も含め、医療機関への連絡、お礼状の送付をしています。

JAPIC-Q Plusは、生物由来製品の感染症定期報告のための文献検索のみ利用。

JAPIC Daily Mailは、弊社における外国措置情報源として一本化しています。外国だけではなく、国内の措置情報も見ています。FDA、EU、イギリス等の規制当局による、医薬品製造販売の中止、使用上の注意の改訂、回収情報等、安全性に関する措置情報を受信しており、午前中の「プレ送信」は迅速性の面で必須の情報源と捉えています。因みに、弊社製品に関連する情報は、昨年度は70件弱でした。

JAPIC Daily Mail Plusも有用であり、昨年、ヘパリンナトリウム製剤について、原料の精製ヘパリンの品質（不純物の混入）が議論されたのは記憶に新しいところです。（これら安全性情報の情報確認は担当者2名があたっています。）

iyakuSearchは、自由に検索・閲覧できる医薬品情報D/Bではあるが、弊社ではまだ積極的利用状況になく、医薬文献情報や学会演題情報を社内外問い合わせへの対応等での利用など、社内文献データベースの補助的位置付けとなっています。無料の医薬品類似名称検索システムとは別の「類似名称検索システム」については、開発段階において、名称の類似性を比較するために利用しています。また、今年の4月から、「効能効果の対応標準病名」が公開され、添付文書の効能効果に対応すると標準病名の選定・関連づけが可能のため今後の利用を考えています。

その他、各種医薬品集やJAPIC Guide、ジャピックジャーナル等は社内の図書室に配架し、月刊のJAPIC NEWSを関係部署閲覧しています。さらに、ユーザ会、薬事研究会、講演会等を教育・啓蒙の場とし、文献複写や附属図書館の閲覧等を含めJAPICの事業を活用する局面は少なくありません。尚、安全管理部の他に、学術部、

開発部さらに薬事やお客様相談の担当者が利用しています。

副作用報告は、昨年度海外からの副作用報告は10万件を越えています。一方、国内での副作用報告数は年間3万件前後、医療機関からも4000件前後で推移しており、情報量からいけば海外からの情報が圧倒的に多く、かつトータル的にも情報としては極めて豊富な状態と思われます。これらの豊富な情報は、その処理、評価、対策措置、情報提供がなされないと意味がありません。

医薬品の安全管理業務に携わるものとして、①医薬品を多くの患者様に利用して頂く「ベネフィットの最大化」、②早期のリスク発見・迅速な対処により被害を最小限にとどめる「リスクの最小化」及び③無駄の少ない効率的な安全対策の向上をはかる「コストの最適化」をいつも痛感しています。良い医薬品はできるだけ多くの患者さんに役立って欲しい、患者さんのリスクは極力抑えたい、そのために知恵を絞ることが責務と認識しています。

一方、企業としてはコストを考慮せざるを得ず、できるだけ合理的なコストで実現させることも重要です。一人一人が自らの手で膨大な手間をかけて安全を守ろうとしても自ずと限りがあります。個々の会社、製品ごとにバラバラにやっていると、手間とお金がかかり、もっと合理的にやるためにもキチンとしたシステム、データベースの整備が必要と考えます。

③ 今後に望むこと

- ・サービス料金への配慮。経費負担が大きく、取捨選択せざるを得ない。
- ・ジェネリック医薬品に係るユーザーニーズ（医療機関/メーカー両面）への考慮
- ・ユーザー活用状況について、より積極的な紹介
- ・JAPICデータベースの拡大と、安全性情報管理の核的位置づけを希望。
- ・ユーザ会等での要望事項へのフィードバック。

「国際モダンホスピタルショー2009」 JAPICブースにも多くの方が来場

2009年7月15日から17日まで3日間東京ビッグサイト（有明東京国際展示場）東ホールで開催された国際モダンホスピタルショーには347社が出展しJAPICも出展しました。

「病院をはじめ、保健・医療・福祉分野における質の向上、充実に役立つ機器、製品、システム、サービスなどを幅広く展示し、最新情報の発信および情報交流の場を提供することにより、健康福祉社会の発展に寄与する」ことを目的に開催され3日間で76,500人が来場し盛況のうちに閉幕しました。展示は6つのゾーンから構成され、JAPICは医療情報システムゾーンに出展しました。「医薬品と対応病名検索システム：インターネットによる“病名ナビ”」を中心に展示紹介しました。多くの方々のご来場をいただき、展示の医薬品と対応病名検索システムについては特に熱心なご質問や導入検討をいただき関心の高さを

実感しました。今後の取組みに向けて大変有益な出展となりました。



[ブース来場者へ説明]

特許法第30条の規定に基づく学術団体の 指定を受けました

平成21年5月15日付けで（財）日本医薬情報センターは「特許法第30条第1項の規定に基づく学術団体」の指定を受けました。

特許を出願する場合、事前に成果発表を行うことは、原則的には発明の新規性が喪失されることになるため認められません。ただし、特許法第30条により、特許庁長官が指定する学術団体が開く研究集会で発表した内容については、発表後6ヶ月以内の出願であれば、発明の新規性喪失の例外の措置を受けることができます。

今回の指定により、当センターが開催する「JAPIC講演会、JAPIC医薬情報講座、薬事研究会、JAPICユーザ会、

臨床試験情報 JapicCTI」での発表あるいは情報の登録内容に基づいて特許を出願する場合、特許法第30条第1項の規定の適用を受けることができます。証明書の発行が必要な場合は、当センターまで申し出てください。

「特許法第30条第1項の規定に基づく学術団体」の指定を受けた学術団体として、特許庁のホームページに当センターが掲載されていますのでご確認ください。

<http://www.jpo.go.jp/torikumi/30jyou/30jyou2/dantai.htm>

次にご参考までに関係資料を掲載します。

「特許法第30条（新規性喪失の例外）の適用について」

（特許庁特許審査第一部 調整課審査基準室）

我国の特許制度においては、特許出願より前に公開された発明は、原則として特許を受けることができません。しかし、刊行物への論文発表等によって自らの発明を公開した後に、その発明について特許出願しても一切特許を受けることができないとすることは、発明者にとって酷な場合もあり、また、産業の発達への寄与という特許法の趣旨にもそぐわないことから、特許法では、特定の条件下で発明を自ら公開し、その後に特許出願した場合には、自らの公開によってその発明の新規性が喪失しないものとして取扱う規定、すなわち発明の新規性喪失の例外規定（特許法第30条）が設けられています。

発明の新規性喪失の例外規定の適用を受けるためには、発明を公開した日から6月以内に特許出願を行うことや、公開の形態が刊行物への発表や特許庁長官の指定を受けた学術団体が開催する研究集会での発表に限られることなど、特定の要件を満たしていることが必要です。また、当該の規定の適用を受ける際には、特許法第30条第4項の規定に基づく所定の手続きを行う必要があります。

「特許法第30条」（発明の新規性の喪失の例外）

第三十条 特許を受ける権利を有する者が試験を行い、刊行物に発表し、電気通信回線を通じて発表し、又は特許庁長官が指定する学術団体が開催する研究集会において文書をもって発表することにより、第二十九条第一項各号の一に該当するに至った発明は、その該当するに至った日から六月以内にその者がした特許出願に係る発明についての同条第一項及び第二項の規定の適用については、同条第一項各号の一に該当するに至らなかったものとみなす。

2 特許を受ける権利を有する者の意に反して第二十九条第一項各号の一に該当するに至った発明も、その該当するに至った日から六月以内にその者がした特許出願に係る発明についての同条第一項及び第二項の規定の適用については、前項と同様とする。

3 特許を受ける権利を有する者が政府若しくは地方公共団体（以下「政府等」という。）が開設する博覧会若しくは政府等以外の者が開設する博覧会であって特許庁長官が指定するものに、パリ条約の同盟国若しくは世界貿易機関の加盟国の領域内でその政府等若しくはその許可を受けた者が開設する国際的な博覧会に、又はパリ条約の同盟国若しくは世界貿易機関の加盟国のいずれにも該当しない国の領域内でその政府等若しくはその許可を受けた者が開設する国際的な博覧会であって特許庁長官が指定するものに出品することにより、第二十九条第一項各号の一に該当するに至った発明も、その該当するに至った日から六月以内にその者がした特許出願に係る発明についての同条第一項及び第二項の規定の適用については、第一項と同様とする。

4 第一項又は前項の規定の適用を受けようとする者は、その旨を記載した書面を特許出願と同時に特許庁長官に提出し、かつ、第二十九条第一項各号の一に該当するに至った発明が第一項又は前項の規定の適用を受けることができる発明であることを証明する書面を特許出願の日から三十日以内に特許庁長官に提出しなければならない。



親の長生きは有難い

旭化成ファーマ株式会社 医薬事業戦略部
横山 亮一 (Yokoyama Ryoichi)

旭化成ファーマの横山です。毎月のJAPIC NEWSを楽しく読ませていただいております。今回、JAPICの担当の方から優しくかつ力強いお声掛けがあり、原稿を書かせていただくこととなりました。

旭化成ファーマは、エルシトニン、ブレディニン、エリル、フリバス、トレドミン、リコモジュリン等の医療用医薬品の他に、流動食、診断薬を手がけており、医療機関の皆様には大変お世話になっております。

私は長らく研究開発部署に所属しており、調査、開発、申請、管理関係の業務を幅広く担当して来ております。

研究開発においては、医薬・医学情報の入手・活用も大切な要素となっています。その中で、主に国内医薬品情報を網羅的に収集・加工・提供いただいているJAPICは重要な情報源であり相談先と位置づけております。

日頃、良く使うのは、iyakuSearchです。国内の論文・学会発表における医薬品情報を網羅的に調べることが出来、文献複写依頼も連動して行えますので、国内医薬品情報のファーストチョイスとしております。また、“赤ジャピ”（医療用医薬品集）も該当医薬品を見る時は印刷体及び適応症等横断的な検索時にはCDを活用しております。また、海外医薬品集・価格表については、図書館に相談し、適切なアドバイスを頂戴しております。

JAPICをお願いしたいと日頃思っております事項から、まずは二つ、

- 1) 個別ユーザーに対するタイムリーな情報提供（例えば、赤ジャピのDVD提供中止はJAPICからもユーザーへ案内が欲しかったですね。また、iyakuSearchユーザーに対して「医薬サーチの使い方」更新も電子メールで個別案内があっても良いのではと思います）。
- 2) iyakuSearch (JAPICDOC) では、海外データベースとの繋がりを考慮してATC、ICD10、MedDRA等の索引の検討、1970年代のバックファイルの追加、エキスパート検索を有効に使うための検索事例説明会の開催。

データベースは、提供者と利用者との良きコミュニケー

ションにより、良いものに進化して行くと思っておりますので、この拙文をお読みの皆様も、是非、気づいた点・要望事項をJAPICへお伝えください（ただ使うだけのサイレントユーザーですと、製品・データベースの改善・進化の恩恵はありません）。

さて、本題です。

自分もいい年のオジサンになりましたので、当然、親も年を取っております。親が年を取りますと、日本の高齢者に対する医療・介護の現場、家族の在り様を見ることになります。

私には、3人の親（実母、義母、義父）がおりまして、実母は3年前に心不全からバイパス手術を行い、その後、痴呆が出て来ました（同じことを何度も言ったり、聞いたりする。置き忘れやしまい忘れが目立つ。物が盗まれたと言って騒ぐ等）。

介護認定、ケアマネージャーさん選定、母に合う施設を探し、介護再認定における医師所見を母の症状を理解する医師へ依頼等を同居してもらっている姉と協力して行っております。また、義母が2年前に脳出血で倒れた際には、急性期病院からの転院先のリハビリ病院探し、急性期病院からの突然の退院勧告の理不尽さ（介護度5の母に対して、自宅で充分介護できる）に直面し、ワンマン義父は、後ろ盾の義母が倒れてもいつも通りに自分のやりたいような生活姿勢で娘（私の妻、義姉）と日々のイザコザを起こしております。

医療・介護は、国・施設サイドの都合もありますので、施設まかせでなく家族が積極的に関与する必要があると実感しています。しかし、痴呆が出た母が子供の健康を気遣ったり、言葉が不自由になった母が物言わずリハビリに取り組み姿勢を見ると親の偉大さを感じます。

介護、医療、家族の問題は親の存在で、自分の問題として早くから考えることが出来ることから、その点も含めて親の長生きは有難いことだなと感じる今日この頃です。

GPS (Global Positioning System) について

広島大学名誉教授 生薬学 山崎 和男 (Yamasaki Kazuo)

(薬学の) 散歩道を歩く時のお供にGPSをお勧めします。

現職の頃、講演や原稿を依頼されたときにはたとえ、専門外の人を対象にする時も必ず化学構造式を使った。その時の言い訳は「私が構造式を使わずに話す(書く)のは、地図を持たずに山を歩くようなものですから……」であった。

ところで、私は大学の頃はワンダーフォーゲル部で野山を歩き回り、当時は黒だけの印刷の5万分の一の地形図(一部は2万5千分の一)を頼りに、「読図」の訓練を受け、歩いた山に赤線を入れてそれが増えて行くのが何よりの楽しみであった。

大学では研究材料の生薬を入手するためにやはり野山を歩き回ったが、どこでどの植物を採集したかの記録はかなり大変な作業であった。この作業を軽減して、目印のない野山の位置を特定するのに素晴らしい道具が誕生した。それが今回話題にするGPSである。

丁度、私が定年になる2003年に、当時は未だ日本で珍しかったGPSレシーバーを購入したが、中々使いこなせず、その機能習得までに勤務を終えてから1年近くかかった。現在ではどこへ行くにもこれを携帯しその恩恵に浴し、超能力を楽しんでいる。

GPSは地球を回る24個の衛星からの電波を観測して、その到達速度の差から自分(GPS受信機)の位置を知る装置で、主としてアメリカが軍事目的に使った。2000年までは敵国に利用されないように妨害電波で測定精度を落としていたが、冷戦終結とともにそれが一般に開放され、現在は10m以内の精度で地球上、どこでも位置を知ることができる。カーナビは将にGPSそのものであり、児童の行動や彷徨性老人の監視にも使われる機種もある。

GPSレシーバーにはかなりの種類があり、単に位置(緯度・経度・高度)を記録するデータ・ロガーから、地図内蔵のもの、気圧計と磁石内蔵で地図がカラーの高級品までさまざまである。電波の受信感度も6年前とは格段の進歩があり、以前は電波の弱い藪や森の中などを歩くと軌跡が途切れて、正確な記録が出来ないことがしばしばであったが、最近になって購入した新機種は、トンネルか大きなビルの中以外は途切れず、車や飛行機の中でもきっちりと軌跡を記録してくれる。

関心のある方の為に、この機器で何が出来るかを

以下に列挙してみよう。

1. 正確な時刻が表示される。時間が測定の基礎となるので、これ以上、正確な時計はあまりないだろう。
2. 自分の軌跡が採れる。徒歩による小道から自転車や車で走った道路のみならず、鉄道、飛行機、船、ハンググライダー、その他どんな乗り物でも、ケータイ電話と同じくらいの小さな機器を身につければどこでも記録でき、後でコンピューターの地図に落とせば正確に時間と場所が特定できる。もちろん、そこまでやるには、コンピューター上で日本人の作った優れた無料ソフトの「カシミール」などの力を借りる必要がある。
3. 覚えておきたいポイント(例えば植物採集地点)に到達した時にスポットすれば、その位置を正確に記録できる。何の目印もない海上で魚群や沈没船の位置も記録できる。また、その軌跡上に自分で撮ったデジカメの写真を張り付ければ、(デジカメの時計が合っていれば)行程の途中でメモをとることなく、正確な記録が作成できる。
4. 数秒おきにサンプリングするので、速度も直ちに計算され、電車が遅れている時に、「やけに飛ばしているな」とか、自動車のスピードメーターはかなりサバを読んで、高めに指示されていることなども判明する。
5. 沢山の検索機能があり、機種にもよるが、都会向きの地図で場所を入力してナビを実行すれば、目的地の方角、そこまでの距離、そして、現在の速度成分から計算して、到着予定時間なども刻々と表示される。
6. 予め、行程をスポットしておけば、山歩きなどの時に、カーナビのように、目的地や、曲がり角で次の方向を指示してくれる。
7. 自分の軌跡をファイルに記録して、それを汎用されている(Googleなどの)地図に落とせば、人に道順を教えるのに便利である。この目的にはやはり日本人の作った轍(わだち)などの無料ソフトが必要である。
8. 日の出、日の入り、月齢と月の出入り、潮の満ち引きなども表示される機種もある。
9. 私はやっていないが、GPS愛好家による隠した宝を緯度・経度を基に探して遊ぶ「宝探し」(Geochasing)や、世界中の経度と緯度の整数交点(格子点)の到達を競うサイトもある。

このように、GPSは、色々の付き合い方があり、それなりにノウハウの習得には時間がかかり、機器以外にも転載する地図も必要である。登山の盛んなスイスでは、目を見張るような美しい等高線付の2万5千分の一の地図も市販されており、今年の6月にそれを持って外国旅行をしたが、往復の飛行機の飛んだ経路（発着時は使用禁止）をはじめ、スイスの鉄道や遊覧船の軌跡、知らないスイスの山野や街中をGPSに導かれて、難なく歩くことが出来た。



スイスの足跡（含電車）GPSによる軌跡

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より —（抜粋）

2009年7月1日～7月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.213-217) の記事から抜粋

【米FDA】

- 米FDA、糖尿病患者におけるLantus (insulin glargine) の使用と癌リスクの可能性について調査した、最近発表された4つの観察研究について、医療専門家および患者に通知
- MedWatch「安全性に関する表示変更（2009年6月）」：Prometrium (progesterone) など
- 米FDA、安全性評価中の喘息薬omalizumab (Xolair) に関するEarly Communicationを発行（観察研究における心血管、脳血管系有害事象の増加について）

【EU・EMA】

- EMA・CHMPの6月会合（2009年6月22日-25日開催）の月間報告：Revlimid (lenalidomide)、Tasigna (nilotinib) など
- Press Release：EU・EMA、insulin glargineの安全性（癌のリスクについて）に関する最新情報を発表（2009年7月23日時点）

【英MHRA】

- 医療専門家向け医薬品安全性情報（2009年6月発行分）：ReFacto AF moroctocog alfa (recombinant coagulation factor VIII)、CellCept (mycophenolate mofetil)、Cerezyme (imiglucerase) およびFabrazyme (agalsidase beta)
- Drug Safety Update (Vol. 2, Issue 12, 2009年7月号)：Clopidogrelとプロトンポンプ阻害剤の相互作用について、abacavirなど

【国際機関 WHO】

- WHO Pharmaceuticals Newsletter (2009年、No.3)：Botulinum toxin type AおよびB、etanercept, clopidogrel など

【医薬品医療機器総合機構】

- 使用上の注意の改訂指示（平成21年7月3日指示分）：フェニトイン、アミトリプチリン塩酸塩など
- 医薬品・医療機器等安全性情報259号：リン酸二水素ナトリウム一水和物・無水リン酸水素二ナトリウムなど

【新着資料案内 平成21年7月3日～平成21年8月3日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順〉

書名	著者名	出版社名	出版年月
COPD (慢性閉塞性肺疾患) 診断と治療のためのガイドライン 第3版	日本呼吸器学会COPDガイドライン第3版作成委員会	日本呼吸器学会	2009年6月
European Pharmacopoeia 6th edition Supplement6.6	Council of Europe	Council of Europe	2009年7月
保険薬事典 薬効別薬価基準 平成21年6月版	薬業研究会 編	じほう	2009年7月
保険薬事典Plus+ (適応・用法付 薬効別薬価基準) 平成21年6月版	薬業研究会 編	じほう	2009年7月
JAPIC 医療用医薬品集 2010	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2009年8月
JAPIC 医療用医薬品集 2010 薬剤識別コード一覧	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2009年8月
重篤副作用疾患別対応マニュアル 第3集	日本医薬情報センター	日本医薬情報センター	2009年7月
改訂 一般用漢方処方の手引き	日本公定書協会 監修、日本漢方生薬製剤協会	じほう	2009年6月
禁煙治療マニュアル	日本呼吸器学会禁煙問題に関する検討委員会	日本呼吸器学会	2009年6月
PEG (胃ろう) 栄養-適切な栄養管理を行うために 改訂版	関西PEG・栄養研究会 編	フジメディカル出版	2009年7月
先発・代表薬でさがすジェネリック医薬品リスト 平成21年6月版	医薬情報研究所	じほう	2009年6月
新小児薬用量 改訂第5版	五十嵐 隆、渡辺 博 他編	診断と治療社	2009年6月
糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン	日本歯科医学会 監修	日本歯周病学会	2009年6月
ワクチンと予防接種の全て 見直されるその威力	大谷 明、三瀬勝利	金原出版	2009年7月
薬事法令ハンドブック承認許可要件省令 第4版 (構造設備規則, GQP, GVP, GMP, GLP, GCP, GPSP, QMP)		薬事日報社	2009年5月
図表でみる世界の医薬品政策 グローバル市場で医薬品の価格はどのように決められるのか	OECD 編著、坂巻弘之 訳	明石書店	2009年6月

情報提供一覧

【平成21年8月1日～8月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. 「医薬関連情報」8月号	8月28日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「Regulations View Web版」No.172-173	8月14日-8月28日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「添付文書入手一覧」2009年7月分 (HP定期更新情報掲載)	8月28日	3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. 「JAPIC NEWS」No.305 9月号	8月28日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. 「JAPIC医療用医薬品集2010」更新情報2009年8月版	8月28日	5. 臨床試験情報	随 時
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		6. 日本の新薬	随 時
1. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.697-700	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	8. 医薬品類似名称検索	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	9. 効能効果の対応標準病名	随 時
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.2005-2025	毎 日	〈iyakuSearchPlus〉	http://database.japic.or.jp/nw/index
5. JAPIC Weekly News No.217-220	毎週木曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
6. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.303-307	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
7. 「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 1 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	https://e-infostream.com/
		〈JST JDreamIIから提供〉	http://pr.jst.go.jp/jdream2/

JAPIC

青ジャピの伝統を守り薬剤師を中心とした
専門のスタッフが丁寧に作成しています。2009年
9月発売

一般用医薬品集2010



■本書の特長

- ◆リスク区分(第1類~第3類医薬品)をわかりやすく表記。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する約12,000製品を収録。個々の製品について、製造・販売会社、組成、添加物、適応、用法を記載しております。
- ◆付録には、一般用医薬品販売に今後必須の情報となる一般用医薬品のリスク区分情報、ブランド名別成分比較表等を収録。

JAPICでは日本製薬団体連合会からの委託を受け、(独)医薬品医療機器総合機構の情報提供ホームページへの掲載データ作成代行業務を行っております。この信頼性の高いデータにJAPIC独自調査分を追加し、他社の追従を許さぬ網羅性の高いデータをお届けします。

9,450円(税込)

B5判/約1,600頁

JAPIC (ジャピック)では、1974年から医療用、1978年から一般用医薬品集を毎年編集しており、その信頼性の証として医療用は“赤ジャピ”・一般用は“青ジャピ”として皆様に親しまれております。

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善 出版事業部 発売 TEL 03-3272-0521

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

ガーデン

このコーナーは薬用植物や
身近な植物についてのヒトクチメモです。
リフレッシュにどうぞ!!

にら

にらの花は秋の初めがきれいである。蝶や蜂が好んで訪れるから、おいしい蜜を出しているのだろう。にらは、にんにく、ねぎ、たまねぎなどとともに、ゆり科に分類され、いおう(S)を含む多様な成分を含み、匂いもいおう化合物によるものだが、それぞれの植物にそれぞれを特徴づける特異的な成分もある。にらも、にんにくも大好きなのに、ねぎは絶対に食べられないという大変センシティブな人もいる。幼児体験がきいているのだろうか、特にセンサーが鋭いからか。(ks)



JAPICホームページより
http://www.japic.or.jp/

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。